

# 子どもの自立に関する支援活動への大学生の関わりについて

土屋ひろ子

岐阜女子大学家政学部健康栄養学科

(2023年11月7日受理)

## Regarding the involvement of university students in support activities for children's independence

Department of Health and Nutrition, Faculty of Home Economics,  
Gifu Women's University, 80 Taromaru, Gifu, Japan (〒501-2592)

TSUCHIYA Hiroko

(Received November 7, 2023)

### 1. 要旨

岐阜県には「子どもの貧困対策アクションプラン」が策定されている。これは子どもの社会的自立までの切れ目のない支援を推進するもので県、市町村、民間団体、県民がそれぞれの立場で取り組んでいるものである。

これに関わって民間団体に取り組んでいるひとり親家庭対象の「子どもの自立に関する支援活動」に大学生が参加した具体的な内容とその成果についてまとめた。

今後、子どもの貧困について考える機会になれば良いと考える。

### 2. はじめに

関市では、子ども家庭課が中心となって子どもが社会的に自立するまでの切れ目のない支援を行っている。対象は、ひとり親家庭の子どもたちである。

ひとり親の家庭では親が正規で働いている場合もあるがパートを掛け持ちしている親もあり、いずれにしても親が働いて生活を支えているのが現状である。

そのような家庭では、子どもの夕食は親が帰ってから用意することになる。また、夏休

み、冬休み、春休みは日中も親が仕事に行っているため留守になり昼食は子どものみで食事をすることになる。

こうした子どもたちに対して食料品や日用品が、スーパーやフードバンクなどから支援されているが、関市子ども家庭課が中心となってその他の生活支援、学習支援や居場所作りに取り組み、その下で民間団体（NPO法人）が支援の一部を任されて活動をしている。特にコロナ禍の時代から多くの支援物資が届くようになった。今年度は、食料品、お菓子、パン、お米などが多く支援された。

このNPO法人の活動に大学生が関わっている。関わっている学生は将来、小中学校の栄養教諭を希望もしくは高校の家庭科教員を目指している学生たちである。どちらも子どもに関わった職業に就きたいという希望を持っているため、多くのことが学べると考えている。そのため、「食育講座」「支援物資を使った料理教室」「学習支援」「居場所作り」などに学生が関わっている。

### 3. 目的

#### ①食育活動

- ・「食育講座」をすることによって食への興味・関心を持たせ、将来の自分の健康に繋げる。

#### ②料理教室

- ・レトルト食品などの支援物資を使って子どもが簡単に出来る料理を教えて夕ご飯を遅くまで待っていないくても食べることが出来るようにする。

#### ③学習支援

- ・塾へ通うことが出来ない子どもへの学習支援を行う。

#### ④居場所作り

- ・子ども食堂の場が楽しい時間になるように遊びなどを計画する。
- ・民間団体が行うイベントに参加して親子で楽しい時間を持たせる。

### 4. 方法

#### ①食育活動

- ・親へのアンケートの結果より、今年度のテーマを「行事食」に決めた。
- ・通信を「子どもカフェだより」として毎月発行する。
- ・月2回、曹洞宗の寺院の境内にある秋葉殿

での子ども食堂の場で「食育授業」を実施。指導案作成、媒体資料の作成を行う。子ども食堂が開催されている場所で食育を行う。

#### ②料理教室

- ・支援物資を使ったレシピ作成と試作。
- ・レシピを使って料理教室開催。
- ・家で作ることが出来たかアンケートで確認、評価する。

#### ③学習支援

- ・毎週1回、水曜日にNPO法人の事務所で行う。
- ・基本的に他の塾へ行っていない児童・生徒を対象とする。
- ・小中学校の宿題を持って来て、それが終わったらドリルを行う約束にする。

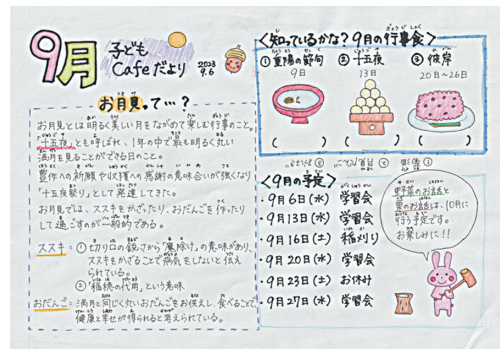


写真1 子どもカフェだより



写真2 食育授業

#### ④居場所作り

- ・下敷き作り，缶バッジ作り，バルーンアート遊び，田植え体験，稲刈り体験
- ・収穫したお米を使った五平餅作り



写真 3 缶バッジ作り



写真 4 田植え



写真 5 稲刈り

#### 5. 総括

今年度のテーマが「行事食」ということなので実際に行事食を食べる機会も持ったが、いつもより参加する子どもも多く、食育の授業では楽しんで参加している姿が見られた。

栄養教諭と家庭科教員の資格を取って今後に生かそうと努力をしている学生たちなので指導案作成も毎回、しっかりと作成出来、使用する媒体作りも研究して作ることが出来た。

料理教室では、家での実践を目指していた。過去には公民ふれ合いセンターの大きな調理場で料理教室を行っていたが、家のキッチンとのギャップが大きすぎて家での実践が難しかった。その反省から、今年度は自分の家のキッチンと同じような家庭のキッチンで調理実習を行うことで家の実践に結びつくようにした。

子ども Cafe 学習指導案			
1. 題材名 「こどもの目について知ろう」			
2. 本時のねらい こどもの目について知り、行事食（柏餅、ちまき等）に興味を持つ。			
3. 食育の視点 こどもの目について知り、行事食（柏餅、ちまき等）を食べてみようと思う。（食文化）			
4. 評価			
知識・技能	思考・判断・表現	学びに向かう力・人間性	
・行事食について理解する。 ・こどもの目について理解する。	・行事食にはどのようなものがあるのか考えることができる。 ・こどもの目で食べるものが食べることができる。	・こどもの目で食べられる物 餅やちまき、柏餅を食べてみようとしている。	
5. 展開			
時間 (分)	学習活動	指導上の留意点	留意点 (教材資料)
4分	1. 行事食について理解する。	○行事食について説明する。 今年の子ども Cafe では、「行事食」について一緒に勉強していきます。 皆さんは「行事食」という言葉を聞いたことがありませんか？ 行事食は季節ごとの行事やお祝い事に食べる特別な料理を「行事食」といいます。行事食には、安全の事や健康を願う意味が込められています。	

写真 6 指導案 1

子どもCafe 学習指導案 6月

1. 題材名  
「七夕の目について知ろう」

2. 本時のねらい  
七夕の目について知り、行事食（そうめん）に興味を持つ。

3. 食育の視点  
七夕の目について知り、行事食（そうめん）を食べてみようと思う。  
（食文化）

4. 評価

知識・技能	態度・規範・意欲	学びに向かう力・人間性
・七夕の目について理解する。	・七夕の目に食べるものを考えることができる。	・七夕の目に食べられるそうめんを食べてみようとしている。

5. 展開

時間 (分)	学習活動	指導上の留意点	留意点 (教材資料)
3分	1. 七夕の目について知っているか確認する。 七夕の目について知っているか確認する。 七夕の目について知っているか確認する。	○七夕の目について知っているか確認する。 七夕の目について知っているか確認する。 七夕の目について知っているか確認する。	
4分	2. 七夕の目について理解する。 七夕の目について理解する。 七夕の目について理解する。	○七夕の目について理解する。 七夕の目について理解する。 七夕の目について理解する。	紙芝居

写真 7 指導案 2

子ども食堂は「居場所づくり」が大きな目的であるため、子どもたちが毎回楽しみに参加するようにしなければいけない。そのためには企画が大きな要因となる。今年度は、屋内ではラミネートを利用した「下敷き作り」自分が書いた絵でつくる「缶バッジ」作り、「柏餅」の試食会などを行った。また、屋外では「田植え」「稲刈り」小川での「魚とり」秋の田んぼで「イナゴ取り」、工場見学などを行い、親子の触れ合いの場とした。

関中央ロータリークラブの皆さまのご協力により収穫出来たお米は後日、五平餅の料理教室を行った。

また、稲刈り時に採ったイナゴは佃煮にして試食した。

## 6. 謝辞

最後に子ども食堂の運営にご協力いただきました「関中央ロータリー」の皆さま、曹洞宗大慈山千手院ご住職 橋本純也さまには心よりお祈り申し上げます。